

伊豆市議会議員 市政報告 小長谷順二 通信

Vol.23 2018.7



小長谷順二 後援会事務所
伊豆市土肥 450-7
TEL/FAX 0558-98-0400
<http://konagayajunji.web.fc2.com/>
Email photo-ko@yc5.so-net.ne.jp

facebook

小長谷順二 検索

海開きの季節を迎え、皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

駿河湾フェリーが3月末で撤退すると表明したことを受け、運航継続策を検討する県のプロジェクトチームは、6月20日に初会合を開き、県や関係自治体、観光団体などが何らかの支援策を講じた上で事業を継続させる方向で検討しており、9月末までに方針を決めると発表しました。伊豆半島の自治体・観光協会・商工会などは連名で「駿河湾フェリー」存続の要望書を提出し、存続に向けた活動に取り組んでいます。

駿河湾フェリーは年間約17万人を伊豆半島に運んでおり、航路がなくなれば伊豆の観光に大きな打撃を受けることとなります。また、災害時には物流や避難ルートとしての活用が期待されており、防災面で住民・観光客に不安を与えることになるので、「伊豆全体、さらに県全体の問題」として捉え、官民一体となって存続に力を注いで頂きたいと願っています。



自然環境等と再生可能エネルギー発電事業との調和に関する条例

「景観の保全や防災対策」を目的に抑制区域内に面積1,000平方m以上のメガソーラーを設置する場合、市長の同意などを義務づける規制条例案を可決しました。【施行期日 10月1日】

修善寺温泉近くの山林で、発電容量10メガワットのメガソーラーの建設が計画されており、事業者からは「条例制定に慎重な検討」の要望書が、また修善寺ニュータウン自治会からは「メガソーラー等大規模森林破壊に関する規制」の相反する要望書が提出され、勉強会の開催や議案質疑、委員会審査に多くの時間をかけて決定しました。



修善寺 早霧湖のメガソーラー

天城湯ヶ島地区の危険空き家・構築物の撤去に関する請願書

湯ヶ島温泉を含む地区内には、廃虚となった旅館や住宅が点在し、防災や衛生・景観など、多方面に悪影響を及ぼしており観光客の受けるイメージの悪化や地域住民の生活環境に深刻な影響を及ぼしている現状に鑑み、天城湯ヶ島温泉旅館組合は2020年東京五輪・パラリンピック開催市として世界から熱い視線が注がれている中、危険空き家など廃屋、構築物の速やかな撤去と、撤去後の周辺環境整備の要望書を伊豆市議会に提出しました。

現場視察を行いましたが一日も早い対応を協議したいと思います。



放置されたままの元旅館

修善寺・中伊豆・天城湯ヶ島地区の中学校のあり方について

伊豆市教育委員会から「修善寺・中伊豆・天城湯ヶ島地区の中学校のあり方」について諮問を受けた市教育振興審議会は8回に渡る審議会を開催し、各校長からの現状説明や学校見学を通して授業や部活動の実態を知り、併せて施設面においては老朽化による課題も把握しました。そしてこども園、小学生の保護者の意見を参考にしながら議論を重ね、伊豆市の少子化の現状と将来を見据えた課題を踏まえ、総合的に判断した結果、「3地区の中学生にとっての『より良い教育環境』としては、中規模程度の生徒集団が必要である。そのためには3中学校を統合すべきである」とした答申書を教育委員会に提出しました。

西井教育長は、方針や具体的内容を検討し、決定時期は未定だが、「目標としては、年内になんとかしたい」と述べました。



中伊豆温泉病院 移転先中伊豆地区 下白岩を候補地に

中伊豆温泉病院は耐震不足、老朽化などでJA厚生連が現在地以外での建て替えを計画しており、6月13日の経営管理委員会で中伊豆地区 下白岩の農地3ヘクタールを移転候補地として土地取得交渉を行うことを決定し、2021年着工、2023年4月開院を目指し事業を進める予定です。平成30年5月中伊豆温泉病院職員は常勤365名、非常勤29名で214名が伊豆市在住です。

昨年の文教ガーデンシティ構想の用地の一部が候補地として検討されていましたが関連予算が否決され、移転候補地も白紙となっていました。企業留置の観点から伊豆市としてどのような支援ができるのか、検討していきたいと考えております。



候補地の 中伊豆下白岩農地

小長谷順二の一般質問 (第2回定例会 平成30年6月14日)

1.機能別消防団について

Q 地区の安全・安心と新たな団員の獲得に向けた施策として、「消防協力隊」の現状と「機能別消防団制度」の可能性について伺います。

A 消防団の後方支援として市内54地区で消防協力隊が編成されています。機能別消防団は基本団員と比べ訓練にかかる拘束や待遇を区別する必要がある、災害時における役割の明確化が課題であると考えています。しかし消防団員の減少を考えると県内の状況を調査し消防協力隊とは別に、機能別消防団の必要性についてしっかりと検証させていただきます。

意見 現在、基本消防団員以外に機能別消防団として397の市町村がこの制度を導入し、19,000人の団員が活動しています。伊豆市としても将来の消防団のあるべき姿について機能別消防団を含め、検討する必要性を強く感じているので積極的な対応に努めて頂きたい。

機能別消防団とは、特定の活動にのみ参加することができる消防団員制度。新たな団員の獲得に向けた施策として2005年に消防庁が打ち出したもので、OB団員の採用など地域の実情に即した運用が期待されています。

2. 海のまち安全創出エリア(オレンジゾーン)指定を受けた観光・防災の新たな取り組み

Q 防災対策整備の要望のとりまとめや、推進計画の見直し、事前復興対策の基本方針など「海と共に生きる観光防災まちづくり」を新たな段階に進めていくのか

A 防災対策は総務部の防災安全課を中心に行ってきましたが、観光を含めた防災を核とした地域づくりは総合政策部でとりまとめを進めています。ハードを含めた避難対策と、長期的に取り組む事前復興まちづくりなどは市長部局全体で進めて参ります。

意見 「伊豆市津波防災地域づくり推進協議会」会長である東大の加藤准教授は、伊豆市は全国を先導するトップランナーとして国とともに積極的に意見交換を重ね、土肥に必要とされる新しい支援策を作ること期待していると述べています。巨大地震・津波等の自然災害リスクと、人口減少・過疎化・高齢化等の社会リスクを受け止め、今後の防災対策と地域活性化を地元の意見を取り入れながら早急に進めて頂きたい。



旧土肥小学校裏山 避難場所

3. 入湯税税率改定について

Q 平成28年9月に修善寺・土肥・天城湯ヶ島の旅館協同組合、中伊豆宿泊組合から「入湯税増税による環境美化推進にかかる要望書」が提出されています。この要望に対し、どのような検討・対応を行っているのか、入湯税税率(150円)改定に対する伊豆市の見解を伺います。

A 庁内検討会4回と旅館組合を含めた検討会を4回開催し、税率改定に向けた旅館組合と宿泊関係者との一体感の醸成をお願いしていますが、明確な結論に至っていません。入湯税の値上げ分を環境整備に充てるご提案は、財政の厳しい本市においては大変ありがたいと思っているので、さらに検討会を重ねて、環境整備にむけた制度設計を検討していきたいと思っています。

意見 今議会で防災・環境等に於ける危険空き家の撤去に関する請願書が提出されています。これら課題にこたえるべき新たな税収の確保につながる入湯税税率改定について、スピード感をもって協議・検討を行って頂きたい。



第22回
小長谷順二 市政報告会開催
平成30年7月19日(木)PM7時～
伊豆市土肥支所 4F読書室

今年も5月21日～25日に議会報告会「みんなで語る会」を開催しました。本年度一般会計予算や常任委員会活動について報告した後に「教育」「医療・福祉」「産業・観光」「建設・防災」の4テーマに分かれ、出席者からの意見を聞くワークショップを行いました。どの会場も出席者が少なく残念でした。私の報告会では議案以外のお話もさせていただきますので是非お出かけください。